

講座名	清澄公園から浜離宮 ～江戸の庭園文化～		
開催日時	2022年 5月22日(日) 10時～14時		
開催場所	江東区清澄庭園と中央区浜離宮恩賜庭園	一般参加者	30名

活動概要

快晴の天気にも恵まれ、楽しい散策会となりました。大正記念館の前の芝生の庭の渡り石に、参加者に数珠つなぎに並んでいただき、最初のご挨拶、大泉水の向こうには、ミニチュアの富士山を眺めることができます。富士山にこだわることなく、参加の皆様が、お互いが子供だった頃の懐かしい田舎の山のことを思い出しながら、散策しましょうと声掛けをして、散策を開始しました。中の島では、清澄庭園に収集された日本全国の名石の由来に関して、プレートテクニクス理論の関連での解説を交え、単なる日本庭園の散策とは異なる、大地の営みの豊かさと厳しさについて考えながらの散策会であることを説明しました。

富士山の前では、滝の流れをイメージした結晶片岩（石英質の筋模様）の大石、清流をイメージした小石の配列の妙等、庭師の細やかな心配りの跡について、見どころを解説しました。芭蕉句碑のある、自由広場には11時に到着、少し早かったのですが、昼食を摂っていただき、昼食後、「古池や 蛙飛び込む 水の音」の句の「カエルは何カエル？」のクイズを実施しました。

浜離宮恩賜庭園では、物資輸送の船着き場の跡、大災害に備えた「粃米」の搬入がなされた事績などを紹介、都市公園の重要な機能を紹介しました。浜離宮は直接東京湾の海水を組み入れる「潮入りの池」になっています。お伝い橋を渡る途中、岸のすぐ近くに、クロダイ、スズキ？と思しき魚が遊泳しているのを見ることができました。

下見の際に、園内でクスノキの落ち葉が一面赤いじゅうたんのよう敷き詰められた光景があり、その写真で、「春の紅葉は何の木の子葉？」というクイズをしました。本番の際に、実際の場所で確認してもらいましたが、クスノキの落ち葉、褐色ではなく、鮮やかな赤みを帯びることもあることを実感していただきました。予定を少し超過しましたが、14時20分事故もなく、無事終了することができました。

下見の際に、園内でクスノキの落ち葉が一面赤いじゅうたんのよう敷き詰められた光景があり、その写真で、「春の紅葉は何の木の子葉？」というクイズをしました。本番の際に、実際の場所で確認してもらいましたが、クスノキの落ち葉、褐色ではなく、鮮やかな赤みを帯びることもあることを実感していただきました。予定を少し超過しましたが、14時20分事故もなく、無事終了することができました。

F I C 講師 渡邊 勲

